人文社会科学　138班
「子どもの孤立を解決するには」

班員　田中由莉亜　山形美央　谷口敬彦　　指導者　宮崎先生

研究の動機
貧困について調べていくうちに子どもの心の貧困について興味を持ったから。

仮説
近年では、経済的な貧困より心の貧困の方が問題とされていることから、『孤立』に視点を置くべきではないか。
児童館や子ども食堂は誰でも気軽に集まれる場所となっているのではないのか。
孤立の定義は、家族や友人などとの交流が乏しい状態。

研究方法
・子ども食堂に行く
・小学校にアンケートをとる
アンケート対象
小学1～6年生、461人

現状分析
子ども食堂の方にお話しを聞いたところ、これからの課題は、「孤立」だと感じた。インターネットで調べたところ「7人に1人」が孤立に悩んでいるということが分かった。

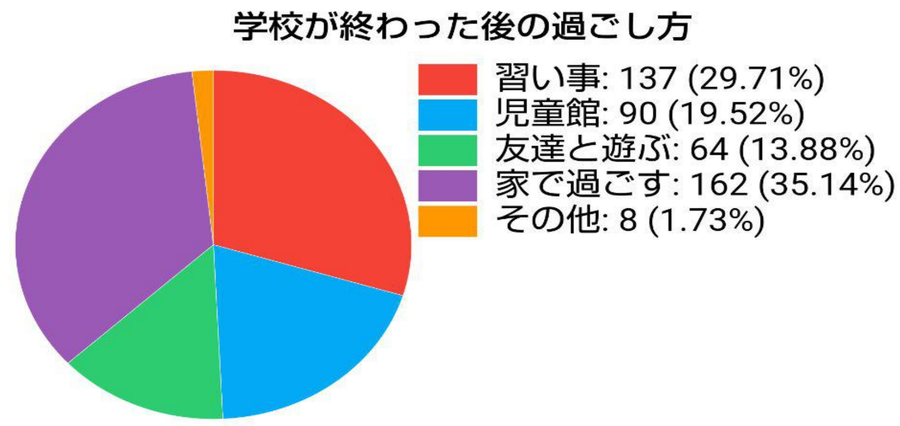
グラフ 1

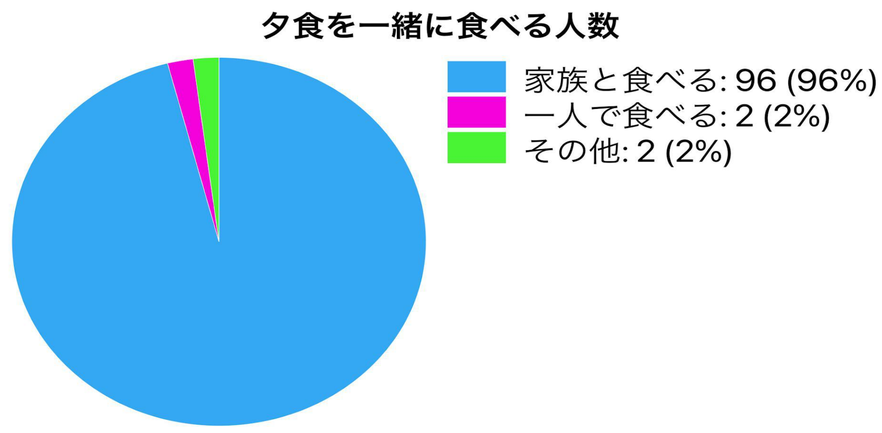
グラフからもわかる通り
上がり下がりはあるものの
年々孤立に悩む子どもが
増えていることが分かる。

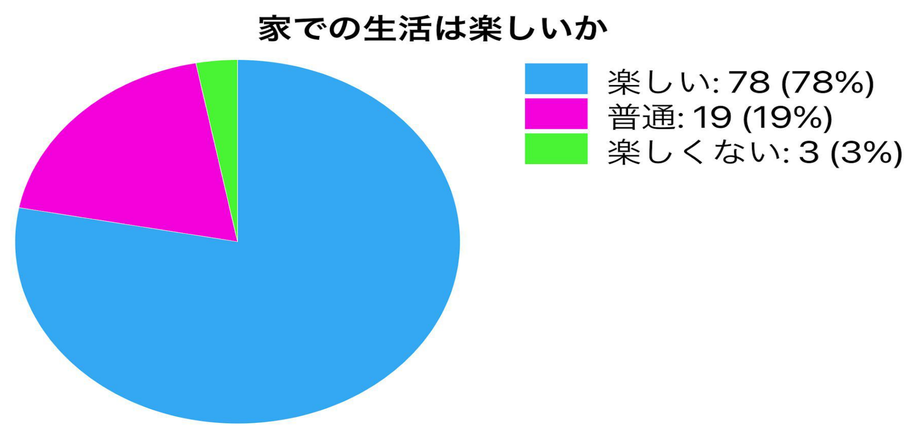
アンケート内容
①学校が終わった後の過ごし方
②夜ご飯を食べる人数
③学校以外の生活は楽しいか

先日訪問した時の写真

アンケート結果







結論
アンケートから延岡市で孤立に悩んでいる小学生は少ないが孤立は存在していることがわかった。
アンケートの③より、スマホやゲームができるという回答が多数あった。
①に子ども食堂という回答が無かった。

考察
延岡市で孤立に悩んでいる小学生が少ないのは、習い事や友達と遊ぶことを選んだ子どもが多いから。
子ども食堂が毎日開いていない事、子ども食堂があまり認知されていないから。

私達にできること
孤立の問題を解決していくのは、家族内での事情などもあるので、難しい。孤立で悩んでいる子どもが、少しでも楽しいと思える環境を作っていくこと。
子ども食堂などの施設を多くの子どもに知ってもらい、孤立に悩んでいる子どもが気楽に利用できるようにすること。

参考文献
グラフ 1https://lab.syncer.jp/Tool/Pie-Chart-Generator/, https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/17goals/, 日本経済新聞